

指導課短信

1 個に応じた指導等の現状

平成 18 年 5 月の教育課程連絡協議会で提出いただいた数学に関する調査の結果がまとまりました。数学科の学習習熟度別指導については、公立高等学校 143 校中 56 校が行っており、実施率は 39.2%でした。2 クラス 3 講座展開や 1 クラス 2 講座展開など、少人数のレッスンルームを実施する学校が多くなっています。

また、チームティーチングを実施している学校は、前年度より 7 校増え 13 校でした。この他にも多くの学校で、補習、グループ指導、個別指導、生徒同士が教えあえる時間の確保など様々な形で「個に応じた指導」が行われています。さらに、観点別評価の導入については、前年度より 14 校増え、公立高等学校 143 校中 105 校が行っており、その割合は 73.4%でした。観点別評価の内容については、多くの学校がシラバスの中に提示しています。

2 千葉県高等学校教育課程研究協議会

去る 7 月 25 日(火)、千葉女子高等学校において、千葉県高等学校教育課程研究協議会が、学習指導要領等に係る説明・協議を行い高等学校の数学教育の改善・充実を図ることを目的として、開催されました。

講師として、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官である永田潤一郎先生をはじめ、崎山廣和先生、田中正夫先

生、中村秀夫先生、池谷隆先生、増田史朗先生をお迎えし、以下のような内容で行われました。

- 説明 1 「これからの数学科における指導の在り方について」
- 「特定の課題に関する調査」の結果から見えるもの-
文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 永田潤一郎 先生
- 説明 2 「平成 18 年度高等学校数学科の課題について」
安房高等学校 池谷 隆 先生
- 説明 3 「数学的活動を取入れた学習指導の工夫」
流山北高等学校 増田 史朗 先生
- 説明 4 「数学的な見方や考え方の良さについて」
小金高等学校 坂本大輔 先生
- 説明 5 「習熟度を高めるための個に応じた指導」
四街道高等学校 横田 弘之 先生

永田先生からは、教育課程改訂の進捗状況について、「新しい時代の義務教育を創造する(答申)」中央教育審議会(平成 17 年 10 月 26 日)を基に、「教育改革のための重点行動計画〜どの子どもにも豊かな教育を〜小坂文部科学大臣」(平成 18 年 1 月 17 日)、「審議経過報告」中教審初等教育分科会教育課程部会(平成 18 年 2 月 13 日)、「中教審教育課程部会高等学校部会」といった順に、現在まで審議を進めてきている、との詳しい説明がありました。

また、高等学校教育を考える視点としては、共通性と多様性をどのように捉えるか、高校生が求めているものは何かを考え、数学科の特色は授業で出すべきであるといった話がありました。

さらに、指導に関する課題や授業を変える6つのステップ、「特定の課題に関する調査」からみえてきた中学校と高等学校の接続に関する課題等について説明もありました。

池谷先生からは、本年度の教科担当指導主事連絡協議会における協議内容を踏まえて、数学科の課題、コミュニケーションと表現、指導上の課題、中教審教育課程部会審議経過報告の概要について説明がありました。中でも、数学の有用性を実感できる指導や、実生活と関連させた指導を重視し、「基本的な概念の理解」、「自分の言葉で表現すること」、「対話を重視した授業を工夫すること」が求められることになるという話がありました。

次に、増田先生からは、数学的活動を取り入れた学習指導の工夫についての紹介がありました。数学の授業に、体験的な活動を取り入れたものや、実験などの具体的な活動をとおして法則を確かめる活動を取り入れたもの、既習の法則を用いる活動と、他の領域の考え方をを用いる活動を組み合わせ合わせた活動を取り入れたものなど、興味深い内容が報告されていました。

次に、坂本先生からは、授業の中で、「生徒が考える場面」の設定や、発問方法の工夫についての実践報告や、「別解」を考えさせる授業実践例等、具体的な実践例の説明がありました。

続いて、横田先生からは、習熟度を高めるための「個に応じた指導方法」として、「ノート指導」の実践報告や、「座席表によるチェック表」の導入、「学習カルテ」の作成など観点別評価につながる実践報告がありました。

関係の先生方の御協力に感謝申し上げます。

3 平成18年度公立高等学校入学者選抜学力検査における数学の結果

全体の平均点は、52.5点で、前年度と比べて0.6点低くなりました。基礎的・基本的な内容を問うものは、従来どおり正答率が高いのですが、平面図形、文字式の内容や複数の学習内容を利用して解く問題、さらに、総合的な力や論理的に思考する力などを見る問題については正答率が低く、全体の平均点が下がった要因と考えています。

4 教科研究員(平成18・19年度)

平成18・19年度の数学科教科研究委員を次の方々にお願しました。教科研究員の先生方には、数学科における指導内容や指導方法について、実践をとおして研究していただき、その成果を報告書としてまとめいただくこととなります。

梅井 泰浩 (千葉南高等学校)
 串戸 広弥 (千葉西高等学校)
 谷野 宏之 (八千代高等学校)
 高橋 広明 (松戸六実高等学校)
 鈴木 洋松 (岬高等学校)

なお、平成16・17年度の報告書は、すでに各学校に配付されていますので、過去の報告書に加えて積極的に活用してください。